



彼らのチャレンジ精神で
遠野がもっと豊かに

市六次産業推進担当主幹
阿部 順郎 さん

この事業には、少子高齢化による人材不足の解消や、移住・定住の促進、6次産業の活性化など、たくさんの可能性があります。さらに、遠野の魅力を生かそうとチャレンジするメンバーが、地元で頑張っている人や、遠野で生まれ育った子どもたちに、良い影響を与えてくれるはずですよ。

中心市街地の空き店舗を活用した「コモンズカフェ」を拠点に、同社はメンバーの活動と交流を支援。地域や企業・団体などの連携をコーディネートする。

遠野ローカルベンチャー事業は、さまざまな可能性を秘めています。外の視点を持つ人材が、遠野で頑張っている人とタッグを組むことで、今までに無かった新しい仕事やなりわいが生まれる▽地域の魅力がさらに高まる▽遠野で生まれ育った子どもたちが地元に残ったり、外から帰ってくるきっかけになるーといった良い効果が期待できるのです。

市は、地方での起業を志す都市部の人材を遠野に呼び込み、地元で活躍している人や企業などのサポートによって起業家を育成する「遠野ローカルベンチャー事業」を平成28年度に始めました。地方創生の一環で総務省が進める「地域おこし協力隊制度」(※)を活用した、先進的な取り組みです。

市と共にこの取り組みを手掛けているのは(株)ネクストコモンズ。全国的に地域活性化事業を展開している林篤志さんが代表を務めています。同社は市のニーズを基に、起業意欲を引き出すようなプロジェクトを企画し、全国から人材を募集。選抜されたメンバーは、市の地域おこし協力隊員として、3年間の任期中は月17万円の報酬を得ながら活動にあたります。

遠野ローカルベンチャー事業は、さまざまな可能性を秘めています。外の視点を持つ人材が、遠野で頑張っている人とタッグを組むことで、今までに無かった新しい仕事やなりわいが生まれる▽地域の魅力がさらに高まる▽遠野で生まれ育った子どもたちが地元に残ったり、外から帰ってくるきっかけになるーといった良い効果が期待できるのです。

全国先駆けの取り組み



都市部で起業に挑戦。
遠野で起業に挑戦。

遠野ローカルベンチャー事業の仕組み



※地域おこし協力隊制度…都市部から地方に移り住み、地場産品の開発・販売、一次産業の活性化、住民の生活支援などに取り組む人を自治体が隊員として委嘱する制度。隊員の活動経費は、国から地方自治体に対して特別交付税で措置される。全国で約4千人が活動している。

=特集=

遠野×起業で未来を創る。

都市部の人材が遠野に移住し、地域と共に地域資源を生かした起業に挑戦しています。その取り組みの名前は「遠野ローカルベンチャー事業」。地域に分け入り、人とつながり、未来を切り拓く挑戦者たちを紹介します。

写真提供・取材協力/株ネクストコモンズ

都市部を離れて遠野に飛び込んだ、 13人の挑戦者たち。

熱い志を持ったメンバーが、地域を元気にするプロジェクトに挑戦しています。遠野に移住したメンバーに、①遠野暮らしの感想②今後の抱負一の2つを聞きました。

ビール・ホップ プロジェクト



たけはし 大輔
30歳、早瀬町在住
青森県出身

①美しい四季の中で「生きてるなあ」と噛み締めて日々生活しています。②クラフトビールの多様性と楽しさを伝え、ビールを通じて、様々なことにチャレンジしていきたいです。



まつもと 陸
59歳、宮守町在住
大阪府出身

①関西出身者なので冬の寒さは堪えていますが、風景は美しいですね。②プロジェクトを応援していただいている人たちの為にも、とにかくおいしいビールを作りたいです。



ひろなか 弘和
42歳、六日町在住
岡山県出身

①土淵あたりの田園風景とホップ畑が綺麗。自然が近くて、アウトドア派にはもってこいです。②ホップ畑をもっとたくさんの市民の皆さんに親しんでもらえるようにしたいですね。



むらかみ 淳一
31歳、土淵町在住
和歌山県出身

①景色が綺麗で空気が良い。春が待ち遠しいです。②ビールの里に向けて小さなチャレンジを続け、やがて大きな成果に繋げたいです。事務局として起業支援も行っていきます。

どぶろく プロジェクト



かいわ 海人
31歳、松崎町在住
盛岡市出身

①遠野の厳しい冬にビックリ。室内の飲み物が凍ることに驚きました(笑)。ただ、朝のしんとした空気はとてもきれいな。②2020年の東京オリンピックでどぶろくを出すのが夢です！

発酵食 プロジェクト



くき なつみ
29歳、中央通り在住
東京都出身

①自然が好きなので、四季の移ろいや遠野の植物の美しさに日々感動しています。②発酵の面白さや身近さを伝えたいです。実作業が好きなので、色々な物作りにも挑戦したいです。

遠野の食 プロジェクト



ひろの みき
38歳、中央通り在住
香川県出身

①寒さが厳しく、冬の食材の少なさに困りましたが、その分、春の喜びはひとしおです。②遠野の食材や郷土食を学びながら、その魅力を伝えていく機会を増やしたいです。

多世代交流 プロジェクト



としかわ まみ
36歳、松崎町在住
奥州市出身

①文化、風土、人が奥深く、遠野は知れば知るほどはまってゆく場所。地域の方々の温かさに感謝します。②あなた達がいてよかったなあと感じてもらえる事業づくりをしたいですね。

魅力発信 プロジェクト



かく たか
31歳、宮守町在住
新潟県出身

①この1年半で、尊敬する人、大好きな人がたくさんできました。②『遠野物語』に代表されるユニークで豊かな文化を市内外に伝えながら、10年先を見据えた地域づくりをしたいです。

デザイン プロジェクト



りゅうこ 橋本
37歳、六日町在住
茨城県出身

①今でも、毎日遠野の景色に新鮮な感動があります。日本の冬に、こんなにたくさんの色があるとは…。②「遠野が好き」と誇らしい気持ちになる商品を遠野の皆さんと作りたいたいです。

可視化 プロジェクト



ひろひさ ひろ
39歳、宮守町在住
長崎県出身

①四季ごとの豊かな色彩が、ふとした瞬間に目の奥に焼き付きます。②遠野との多様な関わり方を可能にする仕組みづくり、私自身もさまざまな形で関わっていきたくと思います。

低コスト住宅 プロジェクト



ただし 小関
35歳、宮守町在住
北海道出身

①今住んでいる家が寒いので、もっと暖くなるよう工夫したい。②遠野ならではの自然を十分に活用して、自分が楽しく、そして他の人も楽しくなるような暮らしを創りたいです。

起業支援・地域おこし



まいか 室井
30歳、小友町在住
愛知県出身

①東京と遠野を行ったり来たりしていますが、今では遠野に戻ってくる度にほっとします。②事務局で活動をサポートしています。皆さんに助けをもらいながら、遠野を発信したいです。

プロジェクトの詳細はフェイスブックへ！

公式アカウント「Next Commons Lab 遠野」プロジェクトの概要やメンバーの活動状況、イベント情報などを、フェイスブックで紹介しています。ぜひ、ご覧ください。

公式フェイスブック
QRコード



1・2_2階は事務所。メンバーが定期的集まり、打ち合わせや情報交換を行っています 3_今月号の表紙の写真 4_1階はおしゃれな交流スペースで、気軽に立ち寄れます 5_多彩なイベントを随時開催。地域住民の交流の場にもなっています



活動と交流の拠点 コモンズカフェ



一日市通りの旧千葉時計店を改装。1階はおしゃれな交流スペースで、2階は事務所になっています。誰でも気軽に立ち寄ることができます。イベント情報などは、フェイスブックで紹介中(右ページ参照)。

地方で挑戦する理由

遠野ローカルベンチャー事業では、現在13人が遠野に移住。全国から応募のあった約80人から選抜されました。遠野の魅力や地域資源を生かすための多彩なプロジェクトに取り組んでいます。都市部で築いてきたキャリアや暮らしを一度リセットし、遠野に飛び込んだ彼ら。家族全員で移住してきたメンバーもいます。リスクを冒してまで、この事業に応募したのはなぜでしょう。共通するのは、地方への思い。地方が持つ豊かな地域資源に可能性を感じ「地方で仕事をやりたい」「地方を元気にしたい」という強い使命感があります。また、都市部に多い大量生産・大量消費を前提としたマニュアル化された仕事ではなく、少量でも、相手の顔を見ながら商品やサービスを提供する仕事やサードパーティを介する仕事やという思いも。自分のノウハウや経験を発揮する舞台として、地方を選択したのです。人口減少や少子高齢化などによる、地域の担い手不足が

中心市街地に新拠点 コモンズ・カフェ

メンバーの活動・交流拠点となっているのが、中心市街地にある「コモンズカフェ」。一日市通り商店街の空き店舗を活用し、平成28年11月にオープンしました。1階はおしゃれな交流スペースで、イベントや遠野産材を使用した料理の提供などに活用されています。2階の事務所では、研修や打ち合わせ、情報交換などを行い、13人はそれぞれの持ち味を出し合い、協力してプロジェクトの成功を目指しています。同所を拠点に、メンバーは地域住民と一緒に遠野の未来を考えています。

2年目を迎える
活動が本格化

事業開始から2年目を迎えて、地域を元気にするためのプロジェクトは正念場を迎えています。

メンバーは、積極的に地域に分け入り、人脈を広げ、地域資源を発掘し、地域の課題やニーズを徹底的に調査。地域住民の声に耳を傾け、地域が必要としている事業やサービスを探っています。

地域との触れ合いの中で生まれたアイデアは、(株)ネクストコモンズや市内の関係者、行政機関などと連携を図りながら、起業に向けた事業計画として形にしていきます。さらに、全国のネットワークも活用。各地で地域活性化に取り組む人たちと連携するほか、大手企業などの支援を受けながら、プロジェクトを着実に前へと進めています。

「遠野産ホップを使い、遠野でビールを作る」という夢を市内のホップ生産者や観光関係者と一緒に叶えようとしています。

壁に突きあたり、日々奮闘。

活動が本格化する中で、たくさん課題に直面しているのも事実です。

遠野の厳しい冬など、地方での慣れない暮らしに加え、地域ならではの習慣やしらみ、同業者との住み分けなど、ヨソモノが理解し、克服しなければならぬ壁は無数にあります。起業に向けた壁も高く立ちまわります。資金・物件の確保、免許・資格の取得などの課題を乗り越える必要があります。起業できたとしても、事業を軌道に乗せるまで安心はできません。

任期は3年間。メンバーは、長いようで短い3年間を、必死に走っています。「遠野のために何ができるのか」「どうすれば遠野はもっと元気になるのか」と悩み、理想と現実の間で葛藤し、奮闘しているのです。



1_遠野醸造の設立イベントにはたくさんの関係者が駆け付けました 2_キリンビールの研修場で、試作品づくりに挑戦 3_全国の醸造所へ行き技術を習得 4_ビアツーリズムで遠野の観光業に新たな可能性を吹き込む

ピックアップ1

ビール・ホップ プロジェクト

ホップの生産地として全国的に有名な本市ですが、生産者の高齢化が課題になっています。そこで、ホップ生産地としての魅力を高め、新規就農と生産量の拡大を後押しするプロジェクトが始動しました。『「ホップの里」から『ビールの里』へ』をスローガンに、遠野産ホップを使用したクラフトビールを造るプロジェクトです。昨年11月、醸造会社「遠野醸造」を設立。本年4月には、市役所本庁舎近くの空き店舗を改装し、醸造所をオープンさせます。現在、メンバーは、ビール醸造家になるための研修と、経営を軌道に乗せるための活動に奔走しています。このプロジェクトでは、ホップの生産振興、ビアツーリズムなどによる観光振興にも取り組みます。

Interview

これからが本当のスタート
早く美味しいビールを届けたい

醸造会社を設立できてうれしい反面、プレッシャーに感じることもあります。地域の支えや応援を糧に、プロジェクトの成功目指してスタートを切りたいと思います。夏前には新作ビールを提供する予定です。ぜひ飲みに来てください！



だいますけ 袴田大輔 さん



ピックアップ2

どぶろく プロジェクト

本市の特産品であるどぶろくの品質向上と生産拡大に取り組むプロジェクトです。メンバーの八重樫さんは現在、どぶろくを世界に発信している遠野の職人・佐々木要太郎さんのもとに弟子入りし、「民宿とおの」を拠点に稲作とどぶろく造りを学ぶ日々を送っています。

将来的には、どぶろくを通じた6次産業化を推進し、米農家の所得増加や観光振興などに発展させる計画です。



Interview かいと 八重樫海人 さん

どぶろくは奥が深い！
将来は全国で魅力を発信。

米や水、菌、仕込みなど、知れば知る分だけ奥が深くなるどぶろく造り。難しいですが、やりがいを感じます。遠野が育んだどぶろくの文化と生産技術をしっかりと感じ、将来は全国の地方でどぶろくの可能性を広めたいです。

1・2_どぶろくづくりと稲作を同時に学ぶ八重樫さん。6次産業化で米農家の所得向上を目指す 3_将来的には幅広い商品展開も視野に入れる



予想以上に大変!?
ただ今、起業目指して奮闘中!

遠野を元気にするため、日々奮闘する13人の挑戦者たち。
「地方で起業」は決して簡単な事ではありません。



5
1_『遠野物語』をはじめとする遠野の歴史や文化を発信する事業を手掛ける富川さん(右から3番目) 2_及川さん(中央)は地域住民の声を聴きながら多世代交流の可能性を模索 3_遠野産材を生かしたレシピを考案する藤田さん 4・5_産直ともちゃん「小友ようかん復活プロジェクト」に協力する橋本さん(右端)と九鬼さん(右から2番目)。橋本さんはパッケージもデザイン 6_郷土芸能を映像化する堀さん(右から2番目) 7_モバイルハウスを試作中の小関さん 8_富川さんが編集を務めたパンフレット

「ネクストコモンズ便り」 4月号から連載開始!

メンバーの活動の様子やイベント情報などをお伝えする新コーナーを、4月号から連載する予定です。お楽しみに!

キーパーソンにインタビュー

遠野に共感した人が、
誰でも挑戦できる場所に。



㈱ネクストcommons代表
林 篤志 さん
32歳、上郷町在住

遠野市と連携してこの事業を始めたのは、遠野の「人」に魅力を感じたからです。遠野には、地域を元気にしたいと考える人たちがたくさんいて、地元の人、よそから来た人も、さまざまな分野で活躍しています。挑戦する人を受け入れる素地が遠野にはあると思います、全国に先駆けてこの事業をはじめさせていただきました。

1年半が経過した現在、起業家メンバーは悩みながらも少しずつ前に進んでいます。メンバーは、実際にこの土地に暮し、地域の実情を知る中で、起業の難しさを、身を持って実感していると思います。誰と、どこで、何をやっていくのか。そして自分たちの仕事として、どのように形にしていくのか。その先に、遠野を、そして社会を変える新たな仕事や仕組みが見えてくるかもしれません。

メンバーの挑戦をきっかけに、遠野の魅力に共感した人が、誰でも地域おこしや、まちづくりに参画できる環境をつくりたい。そうすれば、今以上に多くの人々が遠野に集まるはず。遠野のまちを面白くしたい、地域を元気にしたいという気持ちがある人は、メンバーにお声掛けください。お互いのスキルや知恵を持ち寄れば、新たな可能性が見えてくるはず。一緒に挑戦させてください。

◎はやし・あつし 自治体・企業・起業家など多様なセクターと協業しながら、新たな社会システムの構築を目指す。Forbes Japan ローカル・イノベーター・アワード地方を変えるキーマン55人に選出(2017)。愛知県出身。



1_遠野の文化を掘り起こす「to know」プロジェクトには、多くの地域住民が参加 2_ホップ園場の見学ツアーでは、たくさんのお子たちが参加 3_米通地区での昔ながらの結婚式 4_商店街の夏祭りにも協力 5_郷土芸能に参加するメンバー 6_市内の教育機関と連携した地域貢献活動を展開 8_彼らの熱意が地域に伝わっています



ヨソモノ×地元の人=元気な未来 地域がどんどん元気に

13人の挑戦者たちの活動は、起業に向けたものにとどまりません。遠野市民として、自分たちの知識や経験を地域に還元しています。

地域に広がる
活動と交流の輪

13人のメンバーは、起業に向けた活動だけでなく、地域づくりや教育の現場にも積極的に携わっています。

commonsカフェを拠点に多彩なイベントを企画。地元商店街の夏祭りなどの運営にも協力し、まちなかの賑わいを生み出しています。担い手不足が懸念されている郷土芸能などにも積極的に参加。土淵町の米通り地区で、昔ながらの結婚式を開催するなど、住民を巻き込んだ活動で地域を元気にしています。

さらに、市内の教育機関と連携した活動も展開。地元のお子たちに自分たちの経験を伝えながら、遠野の魅力と一緒に発掘するプログラムなどに取り組んでいます。

彼らは、ヨソモノの視点で大切にしつつ、一人の遠野市民としても活動。自分たちが移住し、暮らしている遠野を、もっと元気で面白いまちにしたいと、本気で行動しているのです。

その情熱と行動は、地域に

良い刺激を与えてくれます。私たちに、地元の魅力を見直すきっかけを与え、挑戦することの可能性に気づかせてくれます。

遠野が元気に
なれば、
地方が元気に！

メンバーの活動に呼応するように、地元の若者からよその人たちまで、commonsカフェには多彩な人材が集い始めています。人と人、地域と地域がつながり、遠野をはじめ

地域の声

彼らのチカラを借り、
一緒に遠野を元気に。

一日市商店街/まつだ松林堂
松田 恵市 さん



夢を具現化してくれる
心強いパートナー。

産直ともちゃん「みつ葉のクローバー」
菊池 泉 さん



挑戦を応援します！

ホップの魂を、
若い人たちに伝えたい。

遠野ホップ生産組合 組合長
佐々木 悦男 さん



ビール・ホッププロジェクトが軌道に乗り、ホップの生産現場に若手が増えてくれることを期待しています。半世紀にわたり培ってきた遠野産ホップの魂を、しっかりと次世代に受け継ぎたいのです。

小友ようかん復活プロジェクトと一緒に取り組んでいます。年が近いので相談しやすく、専門的な助言は勉強になります。アイデアがどんどん具現化される過程に感激。一緒にいろいろな仕事をしたいです。

地域活動やイベント、祭りなどに積極的に参画してくれるので、まちが元気になっています。私たちは、彼らのノウハウを借りながら、一緒に遠野のことを考え、一緒に挑戦するスタンスが必要だと思います。

め、地方全体を元気にするための新しい仕組みが、どんどん広がっています。遠野の未来を、そして、自分の未来を切り拓こうと奮闘する13人の挑戦者たち。彼らと一緒に、チャレンジできることが私たちにこそあります。遠野が元気になれば、地方が元気に、地方が元気に、地方が元気に、日本が元気に、日本が元気に、日本が元気に、遠野から吹かせましょう。